いつの間にか茸に嵌る

須藤 博文

千葉県菌類談話会に昨年入会させて頂きました須藤と申します。1 月 13 日はスライド会には間に合いませんでしたが、その後の懇親会に参加する事ができ、たくさんの方々と交流してとても有意義で楽しい時間を過ごす事ができました。本当にありがとうございました。

この度こちらに投稿させて頂く事になりましたが、私はまだきのこに関する経験も浅く学術的な活動をしているわけでもないので、自己紹介的な、或いは随筆的な内容になってしまいそうですが御容赦下さい。

私にとってきのこというものは、見つけた瞬間に何とも説明し難い独特の感覚を与えてくれる不思議な存在です。子実体の成長がとても速いせいでしょうか、「あれ？こんなところにきのこがあった！」という突然現れた様な驚きと、薄暗い森林の影からこっちを見ているような不思議な感覚、そしてなんといっても様々な色と形が強い印象を残してくれるのでしょう。

子供の頃から昆虫や爬虫類、木々や雑草等の動植物が好きで、山や郊外の緑地などによく行きました。目的はある特定の蜻蛉であったり、ただ山の中を歩く事であったり、きのこを探しに行っていたわけではないのですが、ふと気が付くと茸の視線を感じ、いつの間にか足を止めて見ていました。不思議と数年前まではきのこというものに特別深く入り込んだ事がなかったのですが、いろいろなものに興味を持ってどんどん深入りする性格もあり、私がきのこに嵌るのも必然的なものであったのかもしれません。

高校卒業後 20 年近くアメリカに住んでいましたが、その大半は砂漠のような乾燥した地域であった為、きのことはあまり出会えませんでした。スーパーには大きな Portobello(*Agaricus bisporus*) が並んでいて驚きましたが。

唯一野生のきのこと出会った記憶があるのは南米のアマゾン川流域に 2 度訪れた際に、アマゾンの先住民の方々と合計 2 か月程自給自足で過ごした時でした。魚やワニ、果物やユッカの根等の狩猟や採取に行くのが日課でしたが、その道すがらきのこ類を何度も見ました。スペイン語を知っている先住民の一人に「これは食べられる。食べてみるか？」と聞かれて食べてみたくなりましたが、次の一言を聞いてやめました。

「白いのは食えるんだよ。知らないのか？」

アマゾン川流域には、*Lentinula raphanica* というシイタケの仲間が分布しているらしく、検索したところこれが一番近かったように思えますが、可食なのか分かりません。意外にも、アマゾンには菌類はあまり多くなく、小さめのものが多かった印象です。

日本に帰って来ると、日本にはこんなにもきのこが多かったのだという事に驚き、形や色、種類の多さなどに興味を持つようになりました。SNS 上のきのこのグループに参加し、きのこ好きな方がとてもたくさんいる事にも驚きました。そんな中、同じく今回投稿された高橋さんにこの談話会の事を教えてもらい、入会させていただきました。日本は菌類が多く、しかもきのこ好きな方も多いきのこ天国なのでとても楽しみです。

できる限りいろいろなイベントに参加していこうと思っております。恐らくこの先「菌狂」の学位？称号？を得る事になるかと思いますが、皆様、何卒宜しくお願い致します。